別冊

西宮市
幼児教育・保育ビジョン

（素案）

令和３年(2021)年10月

はじめに

　このビジョンは、西宮市内で幼児教育・保育にかかわる保育者をはじめとして、保護者、地域の皆様などすべての方に向けて作成したものです。

　乳幼児期は、生涯を通じた「根っこ」を育てていく上でとても大切な時期であり、通っている施設の種別や設置主体などに関わらず、質の高い幼児教育・保育を受けられることが大切です。

　また、人口減少やＡＩの発達の影響などから、今後の社会の変化が分からない時代とも言われている中で必要なことは、自ら考え行動し、新たなものを創造できる力であり、その基礎は、乳幼児期の環境を通した教育・保育の中で育まれることからも、その重要性は一層高まっています。

　幼稚園教育要領や保育所保育指針等に基づく幼児教育・保育が受けられるようになっているものの、施設の増加や多様化に伴い、要領や指針の解釈や実行は、それぞれの施設に委ねられています。

　そこで、それぞれの施設の理念と特色は尊重しつつ、西宮市内で行われる幼児教育・保育で大切にしたいことを共有し、質の高い幼児教育・保育のために必要な取り組みを示そうと、学識経験者、市内の公私幼稚園と保育所それぞれの代表者と小学校関係者がワーキングチームを設置してこのビジョンをまとめる検討と議論を重ねてきました。

　このビジョンをもとに、施設種別や設置主体の別にかかわらず、西宮市のすべての施設や地域で「子ども中心の幼児教育・保育」が行われるよう、ともに取り組みをすすめていきましょう。

目　次

はじめに

1　西宮市幼児教育・保育ビジョンとは …… 3

2　このビジョンが目指すもの …… 4

3　みつけて・ためして、とことん遊ぼう …… 6

（1）とことん遊べる環境をつくる　…… 7

ア　安心できる守られた環境　…… 7

イ　子どもに寄り添った環境　…… 8

（2）「遊び」を見守り・支える　…… 9

4　ゆっくり・じっくり、親子になろう …… 11

（1）親子と向き合う …… 12

（2）子どもの成長を保護者と共に喜びあう …… 13

（3）親子と共に育つ …… 14

コラム①　西宮市の豊かな自然の中での健やかな育ち …… 15

コラム②　数値化できない子どもの力（非認知能力） …… 16

5　ビジョンの実現に向けて …… 17

（1）保育者が学び続け、成長していける場の提供 …… 18

（2）施設の枠を超えた保育者相互の高め合い …… 19

（3）乳幼児期だけでなく、就学以降も意識したサポート …… 20

（4）保護者支援と地域に根差した取り組みの推進 …… 21

おわりに …… 22

1　西宮市幼児教育・保育ビジョンとは

このビジョンは

それぞれの施設の理念・特色を尊重しつつ

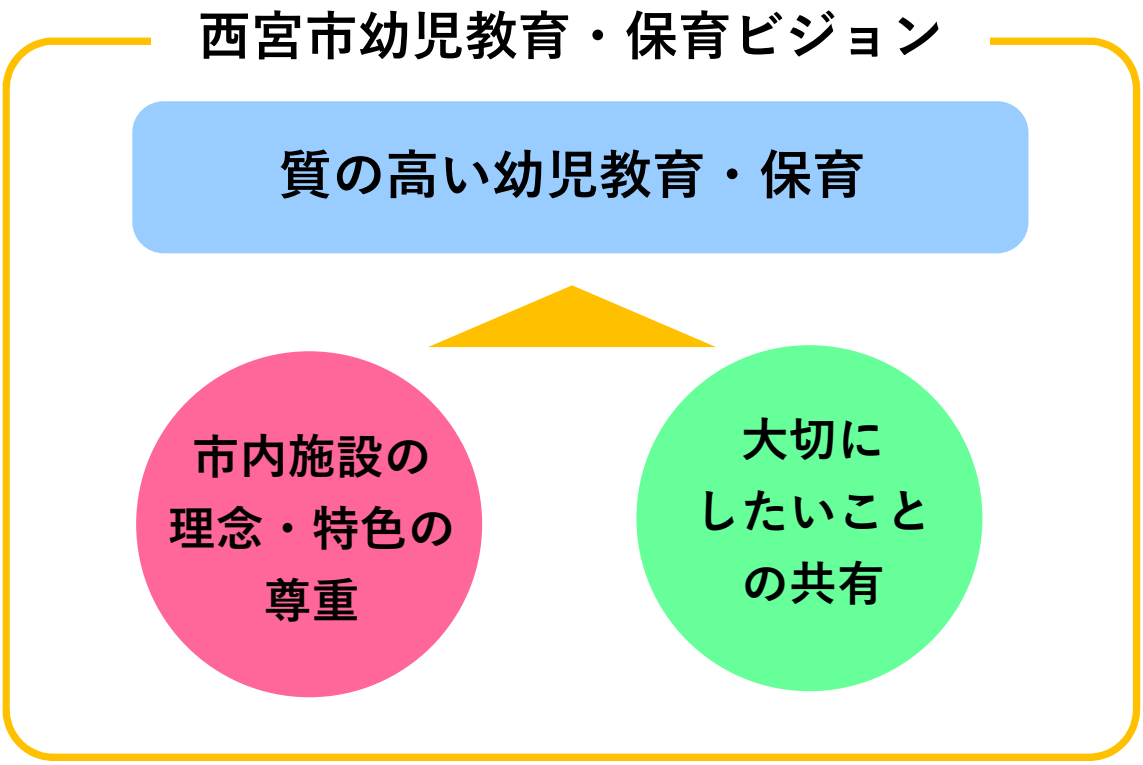
西宮市内で質の高い幼児教育・保育を

実現していくうえで

大切にしたいことを

共有するために

まとめたものです。



2　このビジョンが目指すもの

子どもは、自発的・能動的に環境とかかわりながら豊かな活動を展開していく存在です。

そして、それぞれ豊かな個性を有しており、家庭や地域の環境も多種多様である中、子ども一人ひとりが大切にされ、子どもの主体性や本来の力を十分に引き出して発揮できるよう育んでいく、**「子ども中心の幼児教育・保育」**の実現が最も重要です。

乳幼児期の子どもは、遊びを通して、目標に向かって頑張り、人とうまく関わる力など、小中学校での学びにもつながる、生涯を通じた「根っこ」としての内面の力を身につけていきます。

また、子どもの健やかな成長には、子どもが常に安心して過ごせる場や親子関係が不可欠ですが、現代の多くの人にとっては、子育てが戸惑いを多く感じるものになっています。

西宮市では、すべての子どもが、乳幼児期にふさわしい環境の中で育つことができるよう、見守り・支えることを大切にしながら、子どもが安心して学び続ける意欲や能力を育むため、『遊び』と『親子関係』を大切にする、幼児教育・保育に取り組みます。

「遊び」を大切にする

↓

みつけて・ためして、とことん遊ぼう

「親子関係」を大切にする

↓

ゆっくり・じっくり、親子になろう

子ども中心の幼児教育・保育

遊び

みつけて・ためして、とことん遊ぼう

子どもは

・自ら進んでやってみる
・自分の発想やアイデアを試す
・夢中になって遊び込む

保育者は

・とことん遊べる
　環境をつくる
・「遊び」を
　見守り・支える

親子

ゆっくり・じっくり、親子になろう

親子は

・ゆっくりと親子関係を
　築く
・頑張りすぎず、そのままで
・じっくり子どもと向き合う

保育者は

・親子と向き合う
・子どもの成長を保護者と
　共に喜びあう
・親子と共に育つ

3　みつけて・ためして、とことん遊ぼう

　このビジョンでは、乳幼児期の子どもにとっての遊びを次のように考えています。

・自ら進んで「やってみよう」と思うもの
・楽しくて面白いもの
・自分の発想やアイデアを試せるもの
・夢中になって「遊び込める」もの

　幼児教育・保育において「遊び」が大切な理由は、このような遊びを通して、子どもは目標に向かって頑張る力、人とうまく関わる力、感情をコントロールする力など、生涯を通じての「根っこ」となる内面の力を身につけていくからです。

　乳幼児期に身につけた内面の力は、「後伸び（あとのび）する力」ともいわれ、その後の「自ら学ぶ意欲」や「生きる力」の土台となり、小学校や中学校などでの学びにつながっていきます。

　こうしたことから、
「とことん遊べる環境をつくる」
「遊びを見守り・支える」
ことを大切にする幼児教育・保育に取り組みます。

（1）とことん遊べる環境をつくる

ア　安心できる守られた環境

子どもは周囲の環境にとても敏感であるとともに、その環境に関わりながら様々なことを学んでいきます。

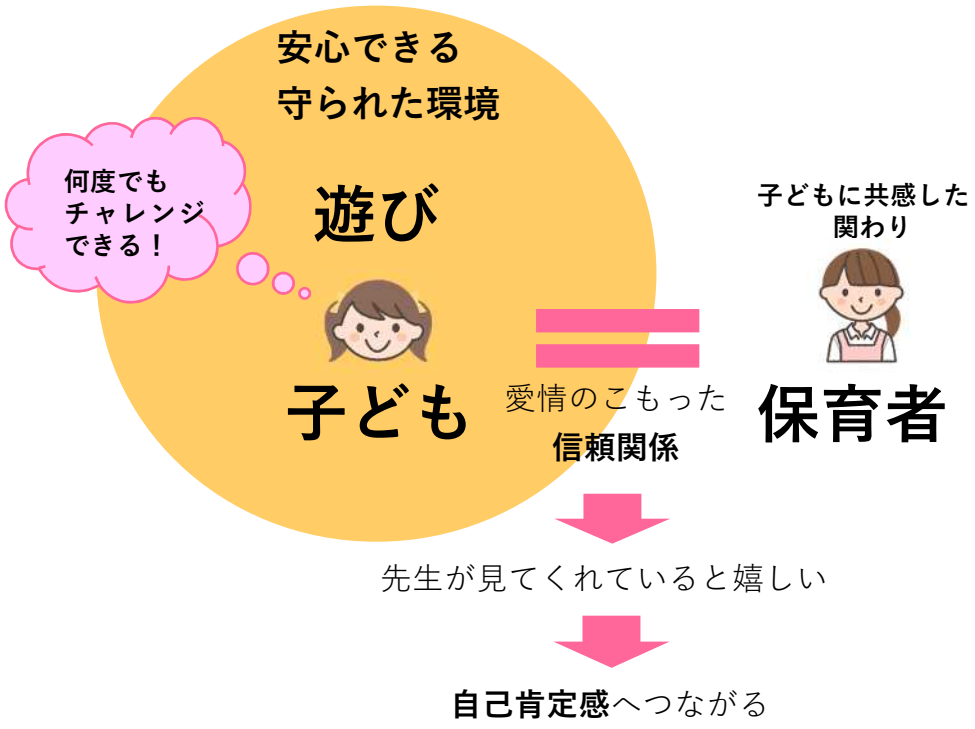
子どもの発達を理解し、危険や不安のない「守られた」環境を整えることで、子どもは「やってみたい」と思う「遊び」を見つけ、自分のアイデアを試すことができます。

また、子どもが「遊び」に熱中するには、「何度でもチャレンジできる」という「安心」も必要です。

安心の基本は、保育者と子どもが愛情のこもった信頼関係で結ばれていることです。

その信頼関係は、保育者が日頃から、子どもに共感しながら関わっていくことで育まれます。

同時に子どもは、「先生が見てくれて嬉しい。」という気持ちにもなり、こうした気持ちの積み重ねが自己肯定感につながっていきます。



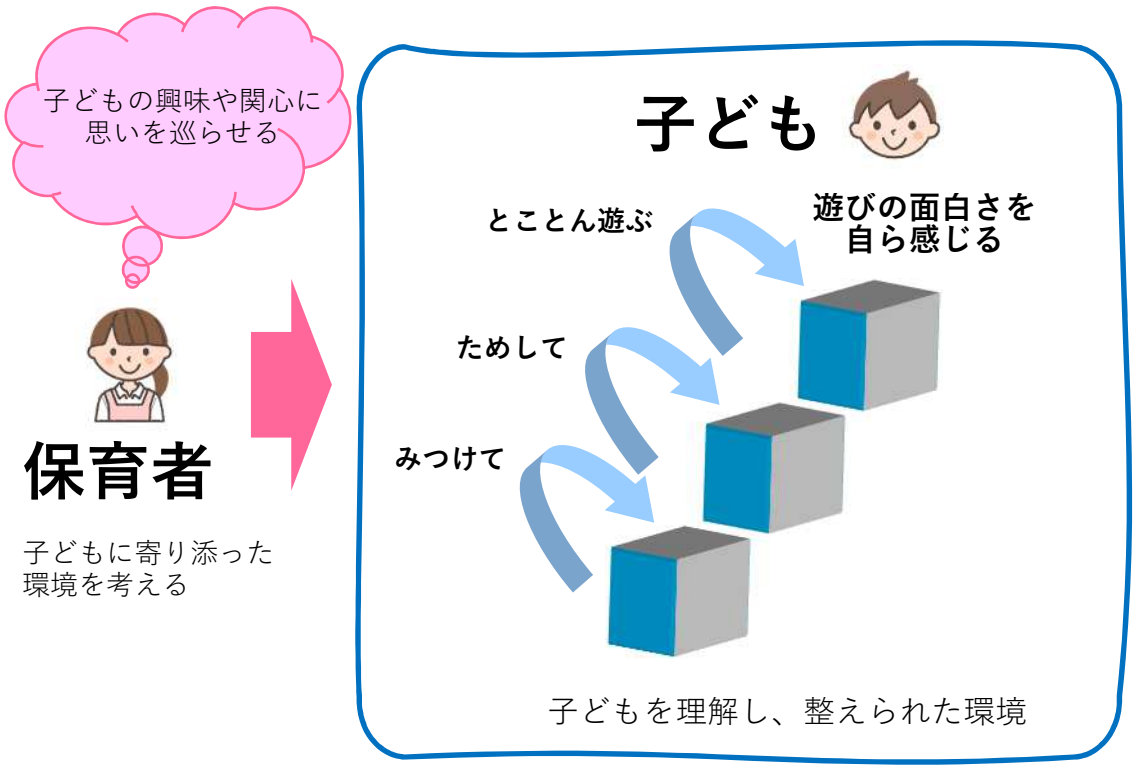
イ　子どもに寄り添った環境

子どもは、心も体もそれぞれのペースで成長します。

興味の対象もそれぞれで、保育者は担当する子どもを理解して環境を整えることが必要です。

整えられた環境に子どもが主体的に関わり、「遊び」に必要な物を考え、作り、使って遊ぶことで、子どもは「遊び」の面白さを感じられるようになります。

時には、季節を感じるために近くの公園へどんぐりを拾いに行く計画をし、「昨日、拾ったドングリで遊んでみよう。子どもたちはどんな遊びを考えるかな。」「アオムシを興味津々に見ていたから、チョウチョウの図鑑や絵本を用意しよう。」など、子どもの興味や関心に思いを巡らせながら、子どもに寄り添う環境を考えることも大切です。



（2）「遊び」を見守り・支える

子どもの成長を見るとき、「縄跳びができた。」「字が書けた。」などの成果に目が行きがちですが、結果だけではなく過程を大切にしましょう。

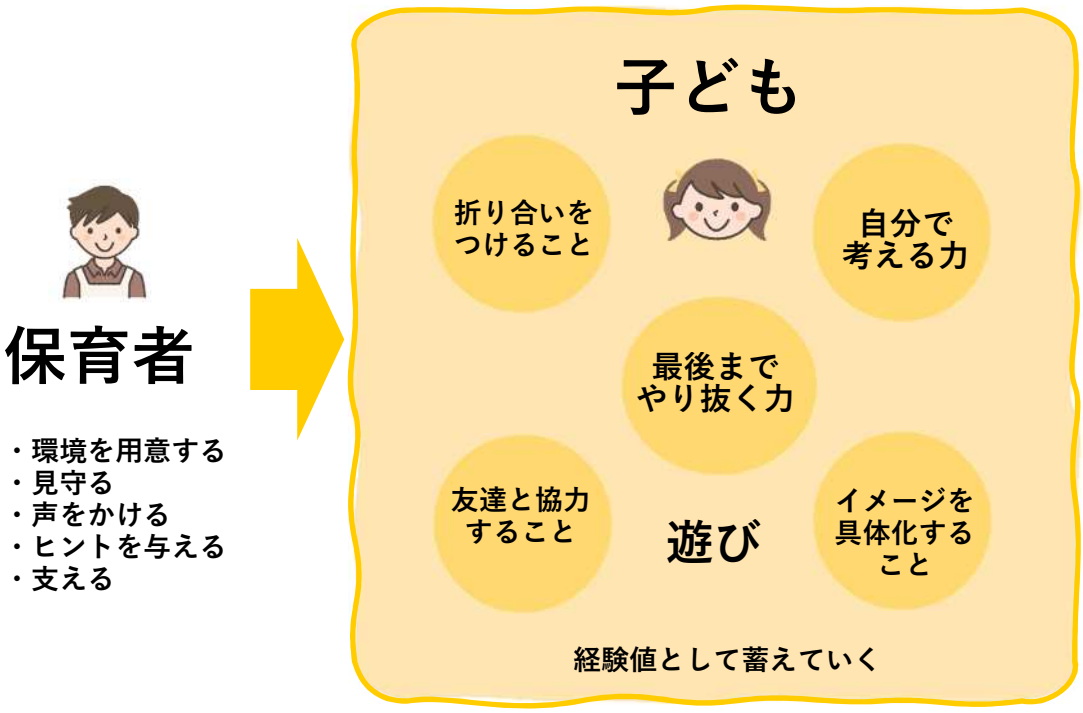
子どもは、「遊び」を通して友達と協力し、折り合いを付けることなどを学んでおり、すべてが経験値として子どもの中に蓄えられていきます。

この積み重ねは、友達とのトラブルが起きた時に「考える力」になり、上手に解決してみせるなど、時には大人たちを驚かすこともあります。

遊びが停滞して見えるときなどは、子どもが自分の考えをはっきりとつかめなかったり、イメージを具体化できなかったりしているのかもしれません。

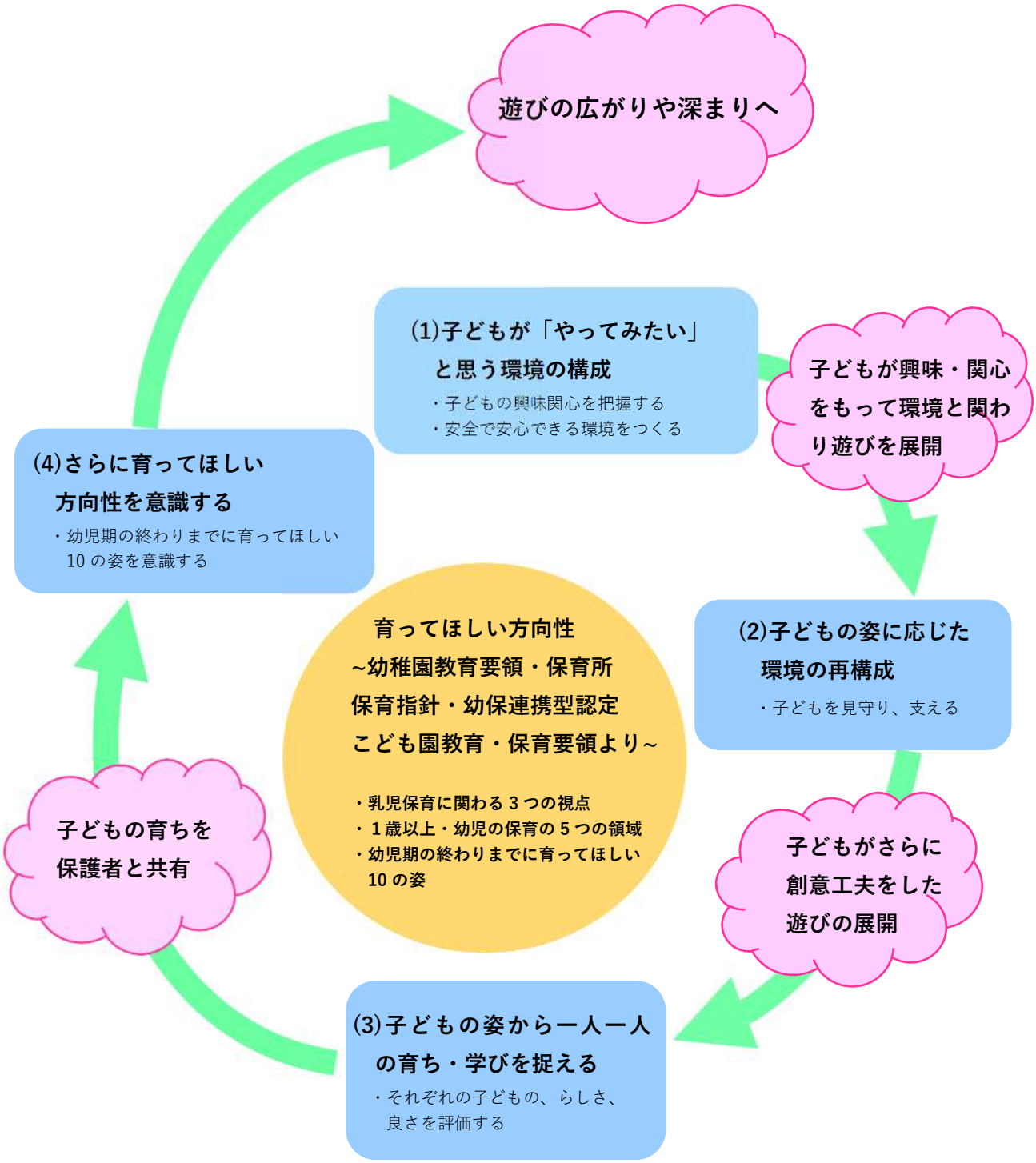
そんなとき、保育者は子どもが何に戸惑っているのか、何かに気づいて考えているのか等その状況や子どもの思いを汲みながら寄り添い、話かけてみたり、ヒントを与えながら、最後までやり抜けるよう支えることが大切です。

子どもの成長・発達の「道すじ」を十分に理解したうえで、一人一人の成長発達や興味・関心の理解に努め環境を用意し、子どもが「遊び」の中で何を楽しみ面白いと感じているのかを汲みながら、見守っていきましょう。



＜「遊び」を通じた子どもの育ちについて（イメージ）＞

子どもが「みつけて・ためして、とことん遊べる」環境づくりと、見守り・支える保育者の援助が、どのように展開するかをイメージしたものです。



４　ゆっくり・じっくり、親子になろう

少子化や核家族化、又は地域コミュニティの煩わしさなどから、周囲に頼らず、インターネットなどに頼った子育てをしている方も見られるように、現代の多くの人にとって、子育てが戸惑いを多く感じるものになっています。

子どもの健やかな成長には、子どもが常に安心して過ごせる場や親子関係が不可欠であることから、このビジョンでは、「遊び」とともに「親子関係」を大切なものと捉えています。

親がありのままの自分を受け入れてくれる、好きでいてくれる、認めてくれると子どもが感じたとき、親が子どもにとって安心でき、信頼できる存在となり、子どもは自己肯定感、自尊感情を育くんでいくことができます。

はじめから完成された親子関係などありません。親子の関係がうまくいかないからといって、親が最初から頑張りすぎる必要はありません。ゆっくりと親子関係を築いてほしい。そして、子どもとじっくり向き合ってほしい、と考えています。

そのために、
「親子と向き合う」
「子どもの成長を保護者と共に喜びあう」
「親子と共に育つ」
ことを大切にする幼児教育・保育に取り組みます。

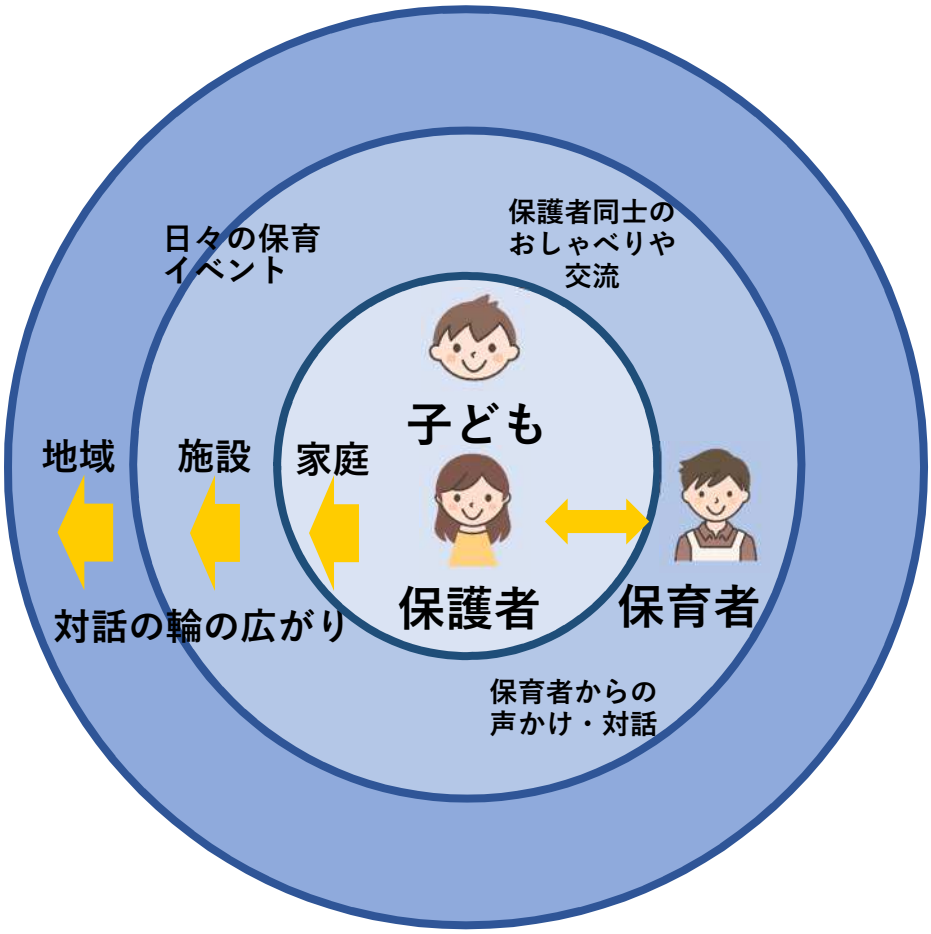
（1）親子と向き合う

保護者は、子育てに関する相談相手がおらず、孤独の中で自問自答し、考えが堂々巡りに陥ることがあります。そのような時は、保育者は保護者にとって気軽に話し合える存在になりましょう。

保育者が、つらい気持ちを受けとめ、共感してくれる存在となれば、保護者にとっても、子どもにとっても、大きな力になります。

そのため、保護者からの相談を待つだけでなく、保育者からも気軽に声をかけるなど、さまざまな機会を設けて、普段からおしゃべりや交流をしていく対話の積み重ねが大切です。

また、施設での日々の保育や、様々なイベント・保護者同士の交流などを通して、周囲や地域とつながり、対話の輪が広がっていく環境づくりをめざしましょう。



（２）子どもの成長を保護者と共に喜びあう

親子の関係が近づきすぎる時、逆に保護者は子どものことが見えにくくなることがあります。

例えば、他の子どもの変化には敏感でも、自分の子どもの成長には気づきにくいこともあります。

そんな保護者が子どもの成長に気づき、それを喜んでいけるよう、その気づきを促し、伝えていくことが、よい親子関係づくりにとって大切です。

保育者という、第三者が入ることで保護者自身が色々なことに気づきやすくなり、保護者が普段と違うところに目を向けるきっかけをつくっていくことが可能となります。

そこで、

・保護者が保育を体験する「保育参加」を通じて、子どもと向き合う

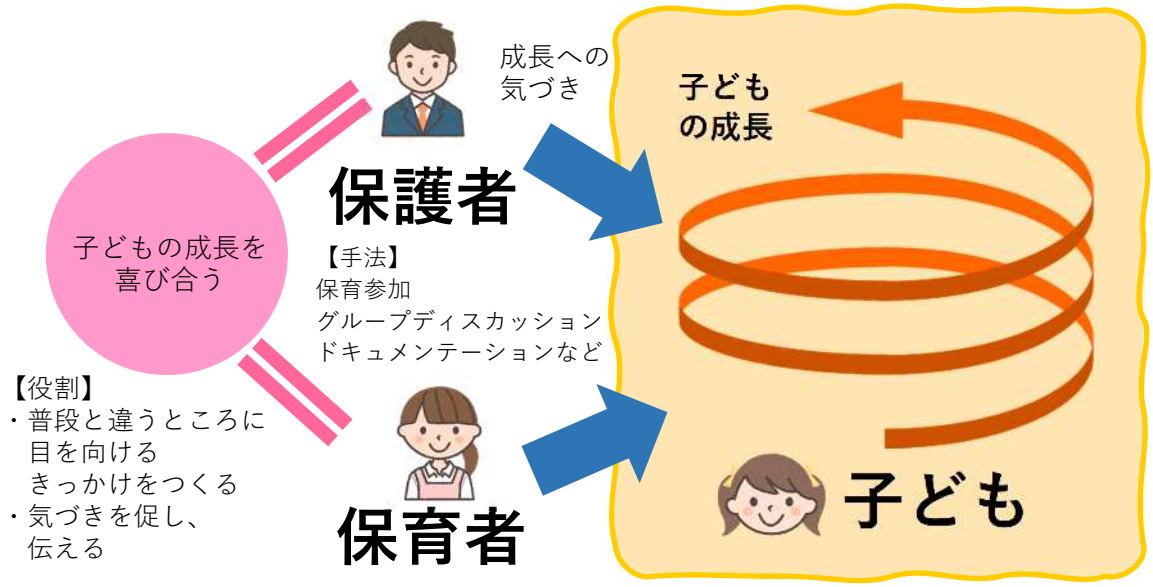
・「保育参加」後の保護者同士によるグループディスカッションで育ちの理解促進を図る

・保育の様子を紹介したドキュメンテーション※等による情報提供を行う

などの取り組みや、機会づくりを進めましょう。

そして保護者と共に子どもの成長を喜びあいましょう。

※子どもたちの会話や行動などを伝えることができるよう、写真や動画、コメントなどで残す



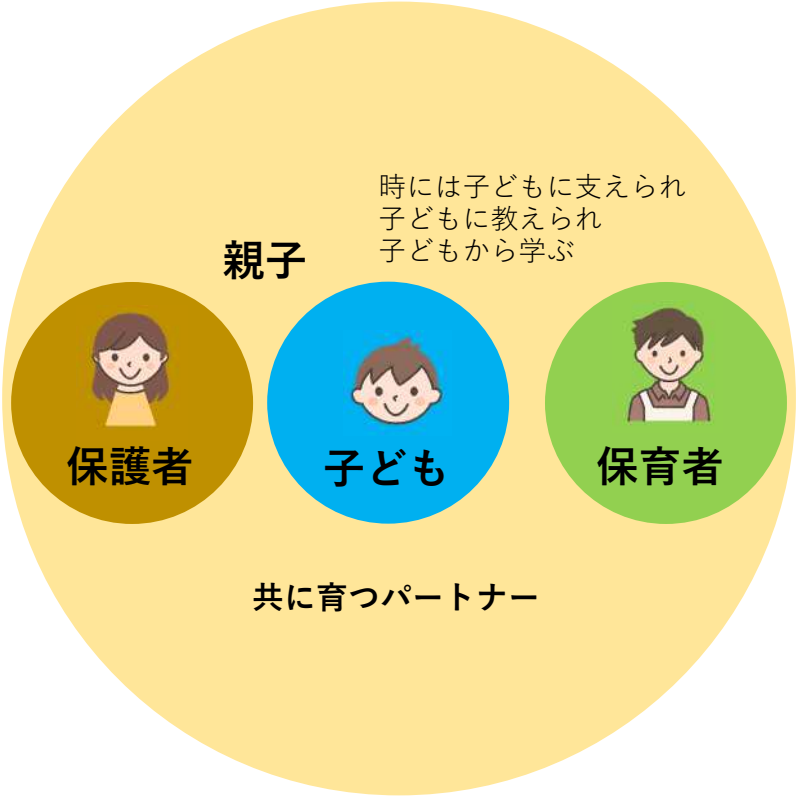
（3）親子と共に育つ

保育者は専門性を持って幼児教育・保育に携わります。

保護者との関わりの中では、様々な相談に応じ、子どもの発達について説明し、必要に応じて保護者を支える立場にあります。

また、保護者と保育者との関係は必ずしも一方的なものではなく、お互いの関わり合いの中で、向き合い、影響を与えながら成長していきます。そうした面から、保護者と保育者はパートナーの関係にあるともいえます。

すべての親子と保育者が「共に育ちあう」とともに、そうした豊かな関係を築いていくことを大切にしましょう。



コラム①　西宮市の豊かな自然の中での健やかな育ち

自然とのふれあいは、子どもにとって豊かな経験の場であり、幼児教育・保育においても欠かせない大切な体験です。

園外保育、特に自然の中に出かけると、子ども達は、そこにあるものを使って、友達と遊ぶために、自ら積極的に創意工夫やコミュニケーションを行います。
そして、美しい花をじっと眺めたり、虫の鳴き声に耳を澄ましたり、浜辺を走り回って砂まみれになったり、自分で収穫した食べ物を味わったりといった自然体験は、子ども達の五感を刺激し、鍛えることになります。
つまり、自然の中での遊びや体験は、生きていく上で必要な技術や感覚を養うための絶好の機会なのです。

また、普段から園内の身近な自然にふれることも、日常と自然との関わり合いに気づき、それらを関連づけて理解するうえで、とても大切な体験です。そのため、さまざまな機会を活かし、それぞれの園内での自然とのふれあいに取り組むことも重要です。

西宮市は、阪神地域という日本有数の都市部に位置しているとともに、甲山など六甲山系の緑の山並み、武庫川・夙川などの美しい河川、大阪湾に残された貴重な甲子園浜・香櫨園浜をはじめとした豊かな自然が残っています。これらの豊かな自然環境を次世代へ引き継いでいくことなどを目指して、２００３年には環境学習都市宣言を行い、子ども達が安全に自然や生き物とふれあい、体感することができるよう、環境学習施設や公園の整備などを進めてきました。

引き続き、園内外で子ども達が自然とふれあう機会をつくることができるよう、環境への取り組みを実践している関係者等とも連携しながら、ビオトープ※の設置や園庭での栽培活動、環境学習プログラムの実施など、関係部署が連携しながら支援を進めていきます。

※生物を意味するビオと場所を意味するトープを合成したドイツ語で、生き物の生息空間を意味している。

コラム②　数値化できない子どもの力（非認知能力）

幼児教育・保育の実施においては、知識や IQ といった認知能力だけではなく、根気強さ、注意深さ、意欲などの「非認知能力※」の育成が重要な役割を果たしています。

※テストで測ったり数値化したりできる学力を指す認知能力以外のものが幅広く、非認知能力といわれており、自律性や自己肯定感、他者への配慮、コミュニケーション能力などが含まれており、近年では「生きる力」とも言われています。

非認知能力がよく伸びるのは乳幼児期から 10 歳ぐらいの頃で、特に幼児期が大切といわれています。

また、子どもが夢中になって遊べるように見守り、子どもが自らやりたいことを決めて、とことん遊びきる時間が多いほど、非認知能力は向上するとされています。

そのため、子どもが夢中になって遊べる環境を整え、見守り、支えてあげることで、子どもが、「愛されている」「見守られている」などと感じながら、やりたいことに挑戦していけるようにしていくことが大切です。

保育者や保護者に愛情を持って支えられながら、子どもが夢中になってとことん遊べることで、非認知能力が身につき、高まっていくことも意識しながら、子どもと向き合っていきましょう。

5　ビジョンの実現に向けて

　このビジョンを実現し、発展させていくためには、西宮市のどこにおいても安心して幼児教育・保育が受けられる環境を整えていくことが必要となります。

　そのため、市と各施設や関係団体などが緊密に連携・協力し合いながら、

「保育者が学び続け、成長していける場の提供」
「施設の枠を超えた、保育者相互の高め合い」
「乳幼児期だけでなく、就学以降も意識したサポート」
「保護者支援と、地域に根差した取り組みの推進」

　などを、幼稚園、保育所、認定こども園などの施設種別や公立・私立などの設置主体の違いにかかわらず、共に進めていきます。

（１）保育者が学び続け、成長していける場の提供

保育者は、子どもの育ちを支え、子どもに大きな影響を与える重要な役割を担っていることから、幼児教育・保育の質の向上には、保育者が、知識を深め、ノウハウを蓄積し、経験豊かな保育者へ成長していくことが大切です。

そのため保育者は、OJT（日々の保育やスーパーバイズなどを通した学び)、Off-JT（園内研修・外部の研修などへの参加を通した学び)、SDS（Self Development System／自己研鑽による学び）をうまく組み合わせ、常に資質能力や技術を磨き、その専門性を向上させていくとともに、保育に関する「計画」、「実践」「振り返り」といったサイクルを重ねて、保育者同士の理解と共感を深め、保育の質を高めていけるよう努めることが必要です。

また、保育者がキャリアパス※に必要なノウハウを習得できるよう、西宮市が主催する研修について、その実施体制や研修体制、受講方法について整理し、幅広い保育者が研修を受講しやすい環境づくりを行います。

さらに、すべての保育者が同じ意識を持ち、保育にあたることができるよう、保育者同士が交流し、子どもの育ちについて意見を交わし、お互いを高めあえる場づくりに取り組みます。

※経歴や役職を意味する「キャリア」を積んでいくための経験やスキルを身につける過程・道筋

（２）施設の枠を超えた保育者相互の高め合い

市内の幼稚園、保育所、認定こども園などは、それぞれに特色のあるカリキュラム、マニュアル、教材、研究結果や豊富なノウハウを有しており、これらは西宮市の幼児教育・保育を支える貴重な財産です。公開保育もまた、保育者のスキルを高める貴重な機会です。

このようなことから、これらを互いに共有し、参考にできるよう、市内の施設それぞれが、施設の枠を超えた保育の公開・情報共有の取り組みを進めていきます。

また、設置主体や施設種別にかかわらず、保育者が意見交換や交流できる場を設け、互恵性のある関係を構築しながら、保育者相互が高め合っていけるよう、市と関係施設等が協働して取り組んでいきます。

（３）乳幼児期だけでなく、就学以降も意識したサポート

乳幼児期は「遊び」を通して、生涯を通じての「根っこ」となっていく内面の力を身に付けていきますが、それが小学校や中学校などでの学習意欲にもつながり、生涯を通じた生きる力にもつながっていきます。

連続した子どもの育ちを考えるとき、幼稚園・保育所・認定こども園が、地域の小学校と連携した関係を構築していくことは非常に大切です。

そのため、西宮市内で、これまで実施してきた「つながり事業」を通じて、幼児期から児童期への接続期の発達の特性を理解し、互いの共通点や相違点について相互理解を深めるとともに、地域の小学校と幼稚園・保育所・認定こども園との連携を強化し、日頃から気軽に職員同士が意見や情報を交換し、加えて子どもが交流できる関係づくりを更に進めます。

また、支援や配慮が必要な子どもに対しても、必要なサポートが切れ目なく受けられるよう、幼児教育・保育施設と小学校がより密接に連携、情報交換するとともに、それらを支援するため、こども未来センターや保健福祉センターなどが、専門的な視点からのサポートを進めます。

西宮市幼稚園・保育所・小学校連携推進事業で発行している「みやっこ『つながり』カリキュラム」※では、内面の力を下記の「３つの力」として整理。

生活する力	環境の変化に適応する力や自立して生活する力
かかわる力	様々な人と関わり合いながら自己を発揮し、共に生活を作り出す力
学ぶ力	身近な環境に興味や関心をもち、自ら考えてかかわる力

（みやっこ「つながり」カリキュラム　2015）

※幼児期から児童期への滑らかな接続を図るため、教職員向けに作成された接続期におけるカリキュラム。

（４）保護者支援と地域に根差した取り組みの推進

子どもの健やかな成長には、保育者と保護者が連携して子どもを支える視点からの保護者支援や、地域での取り組みも大切です。

幼稚園、保育所、認定こども園などは、幼児教育・保育に関する専門性を活かした地域における子育て支援を担う施設として重要な役割が期待されています。

このため、各施設は、園庭開放、体験保育や一時預かり事業、あるいは子育てひろば事業など、その環境・資源と専門性を活かした取り組みを積極的に進めます。

また、保護者に寄り添い、家庭や地域でも子育てを前向きに捉えてもらえるよう、保育者が保護者とのコミュニケーションや、ドキュメンテーションを通した情報提供などに取り組みます。

併せて、各施設は、地域行事への参加・交流を積極的行い、地域に根差した存在となるよう取り組んでいきます。

おわりに

このビジョン策定にあたっては、西宮市で幼児教育・保育に携わる関係団体から、『施設種別や公私の違いを超えて「西宮の幼児教育・保育で大切にしたいことや、共通の思いをつくりたい』と、市に呼び掛けられたことをきっかけに、検討・協議がはじまりました。

設置されたワーキングチームでは様々な議論や熱のこもった意見交換がされる中、委員それぞれの立場は違っても、皆「子どもたちの豊かな未来のために」という共通の思いを持ちながら、充実した協議を行うことが出来ました。

このビジョン策定が、市内の幼児教育・保育に携わるすべての施設がこれまで以上に学びを深める出発点になるとともに、幼児教育・保育に携わるすべての保育者が、質の高い幼児教育を目指して、互いに高めあい、保護者や地域の方々との交流・つながりを大切にしながら、未来を担う子どもたちの健やかな育ちに取り組んでいきましょう。